

金融安定理事会による報告書「市場分断：継続作業のアップデート」 エグゼクティブ・サマリー（仮訳）

2019年6月に金融安定理事会（FSB）が公表した市場分断に係る報告書において、FSBが基準設定主体と協働して対処すべき市場の分断として4つの領域が特定された。この報告書は各領域に関する作業の進捗報告を行うもの。

1. 依拠

証券監督者国際機構（IOSCO）は2020年6月に、意図せざる、規制によって生じる証券市場とデリバティブ市場における市場分断のリスクを当局が緩和する上で有益な報告書「依拠のプロセスに関する好事例」を公表した。

2. 資本と流動性の事前配賦

FSBメンバーは、ホスト法域にとっての確実性と、ストレス時におけるグループ内での資源配分の柔軟性のバランスをとる必要性を考慮し、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）内の資源配分に関する作業を継続している。危機管理グループ（CMG）における母国当局とホスト当局の協力と協調に関するサーベイと、COVID-19の世界的大流行からの教訓を踏まえ、FSBは危機時における実効的な協力と協調を一層促進する方策について検討する作業を行っている。

3. 規制・監督上の協調と情報共有

規制・監督上の協調と情報共有に関するこの間の取り組みは、COVID-19への対応として実施された政策措置に焦点を当ててきた。FSBは、メンバー法域においてCOVID-19の世界的大流行への対応として実施された規制・監督上の政策措置についての情報を蓄積する体制（レポジトリ）を整備した。FSBは、COVID-19への政策対応の差異が市場分断を生じさせ得るのか、一層の国際的な協調が求められるようなクロスボーダーやクロスセクターの波及効果を生じさせ得るのかを特定する作業を継続する。FSBはまた、当局へのデータ報告の収斂を促進する潜在的な方法について模索する。

4. 『大きくて潰せない問題（TBTF）』に対する改革の影響評価

FSBはシステム上重要な銀行に関するTBTF改革の効果の影響評価について市中協議を実施した。この評価作業はまた、クロスボーダーの銀行貸出や、G-SIB内での資金リソースの事前配賦に関する潜在的な分断効果についても検証する。本市中協議文書は、改

革の実施がクロスボーダーの貸出を減少させたという証拠は観察されなかったとしている。同文書はまた、内部総損失吸収力（iTLAC）はクロスボーダーで活動する銀行グループの秩序ある破綻処理を支援し、母国・ホスト当局間の協調を促す結果、破綻処理時における資産のリングフェンスを抑制させ得るとしている。iTLAC が銀行グループ内でのリソースの移転可能性に与える影響については、まだ改革が実施途上であるため、実証的な結果は得られていない。

これらの特定の領域にとどまらず、COVID-19 への政策対応は、政策立案者が市場分断の有害な効果について認識していることを強調した。公的部門のコミュニティは、実体経済の支援や金融安定の維持、市場分断リスクの最小化のため、迅速かつ協調した対応を行った。

以 上